

## 活 動 記 録 書

開催日：平成30年9月6日(木) 天候 晴	開催テーマ：鎌倉の歴史文化遺産を学ぶ
開催場所：佐助・扇ガ谷	記入者：田野実 裕之
参加人数：会 員 男 28名 女 6名 計 34名 ビジター 男 0名 女 1名 計 1名 合 計 35名	
<p>実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）：</p> <p>コース：鎌倉駅西口（集合）～佐助稲荷神社～銭洗弁天宇賀福神社～葛原岡神社（昼食） ～鎌倉歴史文化交流館（講話、見学、解散）</p> <p>鎌倉駅西口の時計台広場に集合する。今回のテーマは「隠れ里」。猛暑も一段落したなか、まずは佐助稲荷を目指して、西に向かう。</p> <p>佐助稲荷の下社で、佐助稲荷についての説明を受ける。祭神は宇迦之御魂命、すべての食を司り、稲の生育を守る神で、商売繁盛の御利益もあるという。源頼朝が伊豆に配流されていたころ、夢枕に現れた「隠れ里の稲荷」と名の翁に拳兵を勧められたとのこと。開幕後、「隠れ里」と呼ばれるこの地に祠を見つけて、社を建てたという。佐殿と呼ばれた頼朝を助けたことから「佐助」の名が付いたと言われる。</p> <p>御霊神社の面掛行列はここに由来するとの説明もあったが、その根拠は確認できなかった。</p> <p>さらに赤い鳥居のトンネルを登っていくと、拝殿。境内で一服してから、階段を上って、本殿。そこには、小さな狐の置物がいたるところに 所狭と奉納されていた。</p> <p>次いで、山路を通過して、鳥居を下に見る丘にでる。ここが銭洗弁天宇賀福神社。祭神は、本宮は市杵島姫命、洞の中にある奥宮が弁財天である。</p> <p>文治元年（巳年、1185年）の巳の月 巳の日に頼朝の夢枕に宇賀神がたち、「我は隠れ里に住む宇賀神なり。西北に湧き出している霊水で神仏を祀れば、国内は平穩に治まる」と告げたという。頼朝は その泉を見つけ、岩窟を掘らせて宇賀神を祀ったのが この社の始まりとされる。なお、この年は 平家が滅亡した年でもある。</p> <p>また、北条時頼もこの信仰を促進し、正嘉元年（巳年、1257年）に銭洗いの効用を実践し、治世に役立てたという。これが今に続く銭洗いの始まりとされる。</p> <p>山路を抜けて、葛原岡神社に向かう道に出る。神社の前にある日野俊基の墓を参拝し、ガイドの説明を聞く。この神社の祭神は日野俊基。明治になって創建された。日野俊基は 後醍醐天皇の側近で倒幕を図るが、その計画が露見し、鎌倉幕滅亡の3ヵ月前にこの地で処刑された。</p> <p>来た道に戻って 銭洗弁天への隧道を脇目に坂を下りきり、隧道を2つ抜けたところが 鎌倉歴史文化交流館。旺文社創業家の別荘を鎌倉市が寄付などにより取得して、昨年、開館された施設である。世界文化遺産申請に際し、「武家の古都・鎌倉」の遺産価値をガイドする予定だったとか。まず、学芸員からこの施設の目的や経緯、概要などを聞き、ついで別館と本館を見学する。別館では 鎌倉で発掘された土器や陶磁器が展示されており、物資などの交流の広さを感じる。本館では、鎌倉の歴史的・文化遺産が通史として展示されている。</p> <p>また、この地は かつて無量谷と呼ばれ、鎌倉時代には 安達氏の邸宅やその菩提寺（無量寿寺）があった所とのことである。</p>	
<p>参加者の状況・意見など：</p> <p>7月に続いて半日の歩きは、上り下りが多かったとはいえ、高齢者集団には好評だったようである。</p>	
<p>次回の予定：</p> <p>10月4日（木）10時 杉本観音バス停 六観音巡り</p>	